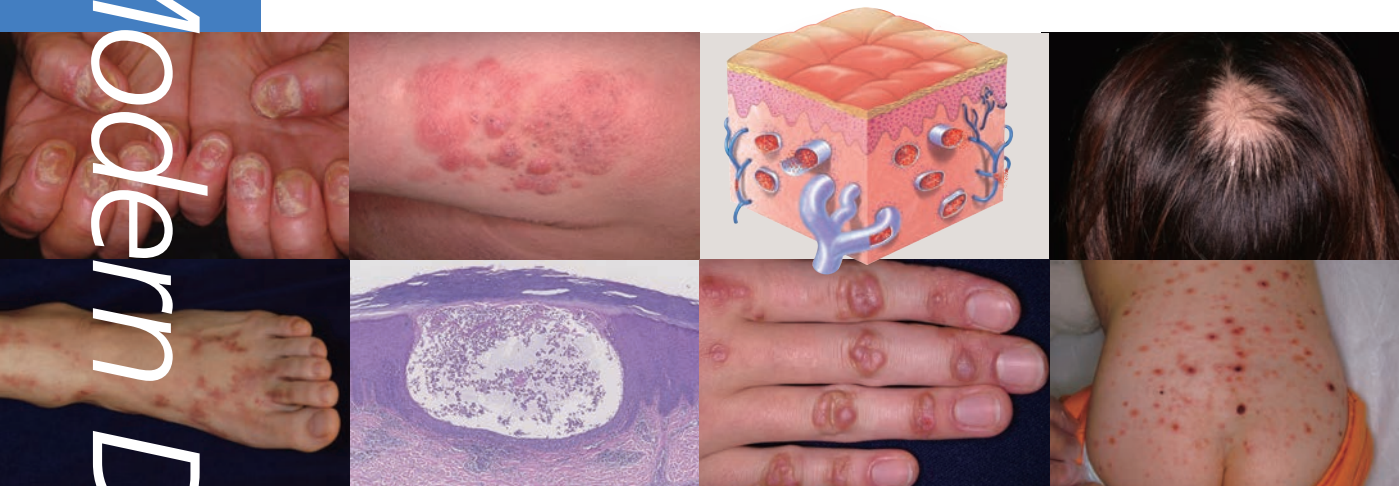


Atlas of Modern Dermatology

あたらしい 皮膚病診療 アトラス



清水 宏 北海道大学医学部皮膚科教授

中山書店

序

どの診療科でも、患者の約3割はなんらかの皮膚病変を有し、皮膚科専門医ではない医師が皮膚病を診察する機会は数多くあります。アトピー性皮膚炎や足白癬（いわゆる水虫）、薬疹から悪性黒色腫まで、皮膚病は実に多彩で多岐に及んでいます。

皮膚病は「見ればわかる」疾患が大半です。見てもわからない、誤診をするというのは、単に医療者側の知識不足による場合がほとんどです。しかし、情報過多時代の現在、自身の診療科の勉強だけで精一杯の医師・医療従事者が、皮膚病の勉強に時間をかける十分な余裕がないのが現状でもあります。

本書は皮膚科専門医だけでなく、あらゆる医師・医療従事者に役立つ、「見ればわかる」皮膚病診療アトラスです。どの診療科においても高頻度に遭遇するであろう皮膚病を選び、その疾患のイメージが見ただけでわかるような典型的で、かつ、高画質の臨床写真を厳選しました。各疾患の説明文は、治療法も含めポイントだけに絞ったので、より詳しい説明が必要な場合は『あたらしい皮膚科学』などの皮膚科教科書を参照してください。

さらに本書で工夫したのは、皮膚科学の総論である「皮疹のみかた」を、表裏の各表紙を開いたところに、光沢のある立体的なイラストを使ってわかりやすく示したことです。本を傾けて、実際に光っている部分を指先で触れ、紅斑や紫斑、丘疹、びらんなどの皮膚病変のイメージを感じとってください。

各論の解説は疾患ごとに独立しているので、どのページを開いても、まず各疾患の臨床写真を見てから説明文を読むことにより、その疾患が画像とともに理解しやすくなっています。

本書の執筆に5年の歳月を要したのは、良い臨床写真の選択にとことんこだわったからです。ほとんどの臨床写真は過去16年間に北海道大学皮膚科で撮影したもので、すべての教室員に深謝します。また「自分で納得できない本は出版しない」という私のこだわりに、長年にわたり付き合ってくださった中山書店の岩瀬智子さんにも深謝します。

2015年8月

清水 宏

CONTENTS

総論

00 皮疹のみかた

- 紅斑 — 2
- 紫斑 — 4
- 色素沈着 — 6
- 膨疹 — 8
- 腫瘍性丘疹 — 10
- 炎症性丘疹 — 12
- 結節 — 14
- 水疱 — 16
- 膿疱 — 18
- びらん — 20
- 潰瘍 — 22
- 過角化 — 24

各論

01 湿疹・皮膚炎 ————— 28

原因が明らかでない，いわゆる“湿疹”

湿疹 — 28

接触皮膚炎

接触皮膚炎 — 30

皮疹の特徴から固有の診断名が付されている湿疹

アトピー性皮膚炎 — 32

貨幣状湿疹 — 34

自家感作性皮膚炎 — 36

脂漏性皮膚炎 — 38

うっ滞性皮膚炎 — 39

02 蕁麻疹・痒疹 ————— 40

蕁麻疹および血管性浮腫

蕁麻疹 — 40

血管性浮腫 — 43

痒疹

慢性痒疹 — 44

03 紅斑・紅皮症 ————— 46

いわゆる紅斑

多形紅斑 — 46

Stevens-Johnson 症候群 — 48

Sweet 症候群 — 50

環状紅斑

遠心性環状紅斑 — 52

紅皮症

紅皮症 — 54

04 薬疹・GVHD ————— 56

薬疹

薬疹 — 56

薬疹の特殊型

固定薬疹 — 58

中毒性表皮壊死症 — 60

薬剤性過敏症症候群 — 62

急性汎発性発疹性膿疱症 — 64

手足症候群 — 65

GVHD

移植片対宿主病 — 66

05 血管炎・紫斑・その他の脈管疾患 — 68

血管炎

小血管

皮膚小血管性血管炎 — 68

Henoch-Schönlein 紫斑 — 70

小～中動脈

結節性多発動脈炎 — 72

Churg-Strauss 症候群 — 74

その他の類縁疾患

Behçet 病 — 76

壊疽性膿皮症 — 78

川崎病 — 80

Buerger 病 — 81

その他の脈管疾患

慢性静脈不全 — 82

リペド，皮斑／リペド血管症 — 84

Raynaud 現象，Raynaud 病 — 86

火だこ，温熱性紅斑 — 87

06 膠原病および類縁疾患 — 88

エリテマトーデス

全身性エリテマトーデス — 88

円板状エリテマトーデス — 90

強皮症

全身性强皮症 — 92

限局性强皮症 — 94

その他の膠原病

皮膚筋炎 — 96

抗リン脂質抗体症候群 — 98

Sjögren 症候群 — 99

関節リウマチ — 100

07 物理化学的皮膚障害・ 光線性皮膚疾患 — 101

物理化学的皮膚障害

褥瘡 — 101

熱傷 — 102

凍瘡／凍傷 — 104

光線性皮膚疾患

日光皮膚炎 — 106

光線過敏症 — 107

慢性光線性皮膚炎 — 108

色素性乾皮症 — 110

08 水疱症・膿疱症 — 111

水疱症

遺伝性水疱症（先天性水疱症）

●表皮水疱症

単純型表皮水疱症 — 111

接合部型表皮水疱症 — 112

栄養障害型表皮水疱症 — 114

自己免疫性水疱症（後天性水疱症）

●表皮内水疱症（天疱瘡群）

尋常性天疱瘡 — 116

落葉状天疱瘡 — 118

●表皮下水疱症（類天疱瘡群）

水疱性類天疱瘡 — 120

膿疱症

掌蹠膿疱症 — 122

09 角化症 — 124

遺伝性角化症

尋常性魚鱗癬 — 124

X 連鎖性劣性魚鱗癬 — 125

掌蹠角化症 — 126

表皮融解性魚鱗癬 — 128

Darier 病 — 129

後天性角化症

乾癬 — 130

乾癬性関節炎 — 132

毛孔性紅色皰糠疹 — 133

類乾癬 — 134

扁平苔癬 — 136

Gibert ばら色皰糠疹 — 138

鶏眼／胼胝 — 139

毛孔性角化症——140

黒色表皮腫——141

10 色素異常症——142

色素の脱失を主体とするもの

眼皮膚白皮症——142

尋常性白斑——143

Sutton 母斑——144

色素増加を主体とするもの

遺伝性対側性色素異常症（遠山）——145

老人性色素斑——146

Addison 病——147

11 代謝異常症——148

アミロイドーシス

アミロイドーシス——148

ビタミン

ペラグラ——151

ピオチン欠乏症——152

黄色腫

黄色腫——154

電解質

亜鉛欠乏症候群——156

ヘモクロマトーシス——157

糖尿病における皮膚変化

糖尿病性壊疽——158

リポイド類壊死症——160

ポルフィリン症

晩発性皮膚ポルフィリン症——161

その他

Fabry 病——162

12 真皮、皮下脂肪組織の疾患——163

真皮の疾患

皮膚萎縮症

White fibrous papulosis of the neck——
163

Werner 症候群——164

皮膚形成異常症

先天性皮膚欠損症——165

肉芽腫性疾患

サルコイドーシス——166

環状肉芽腫——168

肉芽腫性口唇炎——169

穿孔性皮膚症

蛇行性穿孔性弾力線維症——170

遺伝性結合組織疾患

Ehlers-Danlos 症候群——171

弾性線維性仮性黄色腫——172

皮下脂肪組織疾患

脂肪組織炎

結節性紅斑——173

硬結性紅斑——174

リポジストロフィー

後天性部分型リポジストロフィー——175

13 付属器疾患——176

脂腺の疾患

尋常性痤瘡——176

顔面播種状粟粒性狼瘡——177

酒皰——178

酒皰様皮膚炎——180

毛髪疾患

円形脱毛症——181

先天性脱毛症——182

爪甲の変化

メラニン色（黒色）の爪——183

緑色の爪——184

時計皿爪——185

匙型爪——186

陥入爪——187

14 母斑・神経皮膚症候群 188

母斑

メラノサイト系母斑

- 母斑細胞母斑
母斑細胞母斑——188
巨大先天性色素性母斑——190
- 真皮メラノサイト系母斑
太田母斑——191
蒙古斑——192

表皮系母斑

脂腺母斑——193

神経皮膚症候群

- 神経線維腫症 1 型——194
- 結節性硬化症——196
- Peutz-Jeghers 症候群——197
- 色素失調症——198
- Sturge-Weber 症候群——200
- 遺伝性出血性毛細血管拡張症——201

15 皮膚の良性腫瘍 202

表皮系腫瘍

- 脂漏性角化症——202
- 汗孔角化症——203

汗腺系腫瘍

- エクリン汗孔腫——204
- 汗管腫——206

嚢腫

- 毛巣洞——207
- 類表皮嚢腫——208

神経系腫瘍

- 神経線維腫——210

脈管系腫瘍

- 血管成分の腫瘍
グロムス腫瘍——211
乳児血管腫——212
化膿性肉芽腫——214
- 血管奇形
毛細血管奇形——215

- 静脈湖——216
- 被角血管腫——217

線維組織系腫瘍

- 皮膚線維腫——218
- 肥厚性瘢痕およびケロイド——219

組織球系腫瘍

- 黄色肉芽腫——220

脂肪細胞系腫瘍

- 脂肪腫——222

造血系腫瘍

- 皮膚リンパ球腫——223
- 肥満細胞症——224

16 皮膚の悪性腫瘍 225

皮膚の悪性腫瘍

表皮・毛包系腫瘍

- Bowen 病——225
- 基底細胞癌——226
- 有棘細胞癌——228
- 光線角化症——230
- 砒素角化症——232
- 白板症——233
- ケラトアカントーマ——234

神経系腫瘍

- Merkel 細胞癌——235

汗腺系腫瘍

- 乳房外 Paget 病——236

間葉系腫瘍

- 線維組織系腫瘍
隆起性皮膚線維肉腫——238
- 脈管系腫瘍
血管肉腫（脈管肉腫）——239
- Kaposi 肉腫——240

癌の皮膚転移

- 癌の皮膚転移——241

悪性リンパ腫および類縁疾患

- 原発性皮膚リンパ腫——242
- 菌状肉肉症——244
- 成人 T 細胞白血病/リンパ腫——246

悪性黒色腫

悪性黒色腫（メラノーマ）—— 248

17 ウイルス感染症—— 250

水疱を主体とするもの

単純ヘルペスウイルス感染症—— 250

帯状疱疹—— 252

水痘—— 254

疣贅を主体とするもの

尖圭コンジローム—— 255

尋常性疣贅—— 256

伝染性軟属腫—— 258

全身性の皮疹を主体とするもの

麻疹—— 259

風疹—— 260

伝染性紅斑—— 261

Gianotti-Crosti 症候群—— 262

手足口病—— 263

18 細菌感染症—— 264

急性膿皮症

伝染性膿痂疹—— 264

丹毒—— 265

蜂窩織炎—— 266

毛包炎（毛嚢炎）—— 267

慢性膿皮症

慢性膿皮症—— 268

全身性感染症

ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群—— 269

壊死性筋膜炎—— 270

19 真菌症—— 271

浅在性真菌症

● 白癬

足白癬—— 271

爪白癬—— 272

手白癬—— 273

体部白癬—— 274

Celsus 禿瘡—— 276

● カンジダ症

カンジダ性指趾間びらん症—— 277

黒毛舌—— 278

● マラセチア感染症

癬風—— 279

マラセチア毛包炎—— 280

深在性真菌症

スポロトリコーシス—— 281

20 抗酸菌感染症—— 282

結核菌によるもの

皮膚腺病—— 282

非結核性抗酸菌によるもの

非結核性抗酸菌感染症—— 283

らい菌によるもの

ハンセン病—— 284

21 節足動物などによる皮膚疾患—— 285

昆虫などによる皮膚疾患

虫刺症—— 285

疥癬—— 286

マダニ刺咬症—— 287

昆虫などが媒介する皮膚疾患

ライム病—— 288

寄生虫による皮膚疾患

クレーピング病—— 289

22 性感染症—— 290

梅毒—— 290

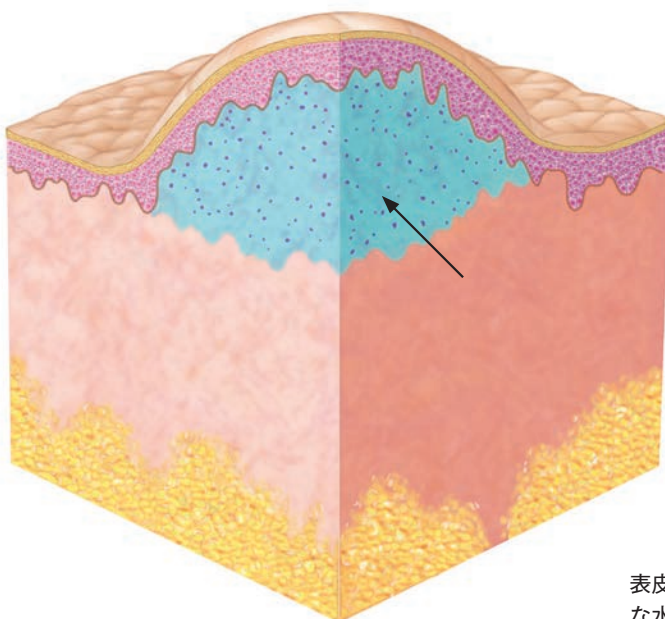
索引—— 292

水疱

blister, bulla

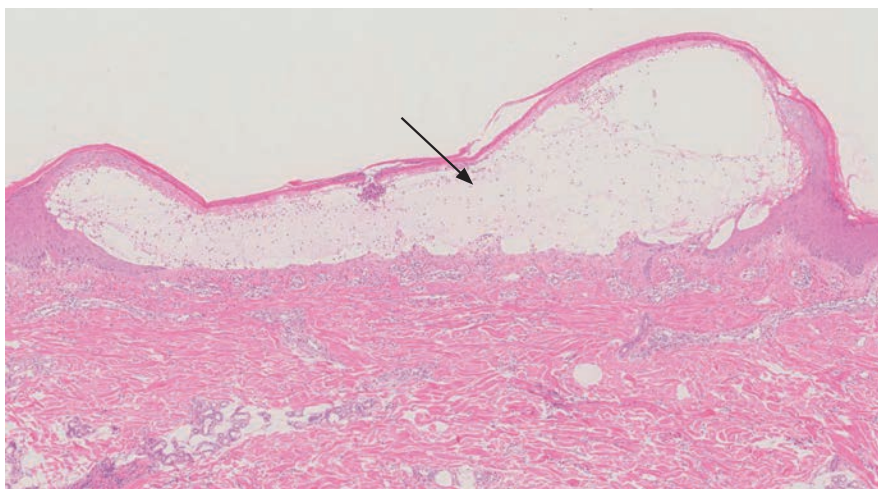
直径 5 mm 以上のものを水疱といい、透明な水様性の内容を持ち、天蓋に被膜をもつ皮膚隆起である。水疱が基底層下にできた場合は、被膜が厚く緊張し、水疱は張りをもって破れにくい（緊満性水疱）。一方、表皮内にできた水疱は被膜が薄く、張りのない破れやすいものになる（弛緩性水疱）。

3D 模式図



表皮の裂隙内(→)に透明な水様性の内容をもつ

病理写真



臨床写真



単純型表皮水疱症 (epidermolysis bullosa simplex)
▶ p.111



水疱性類天疱瘡 (bullous pemphigoid) ▶ p.120



チャーグ ストラウス
Churg-Strauss 症候群 (Churg-Strauss syndrome)
▶ p.74



晩発性皮膚ポルフィリン症 (porphyria cutanea tarda)
▶ p.161



熱傷 (burn) ▶ p.102



単純ヘルペスウイルス感染症 (herpes simplex virus infection) ▶ p.250



虫刺症 (insect bite) ▶ p.285

ヘノッホ

シェーンライン

Henoch-Schönlein 紫斑

Henoch-Schönlein purpura; HSP

血管炎＞小血管 **同義語** IgA 血管炎 (IgA vasculitis), アナフィラクトイド紫斑 (anaphylactoid purpura)

- 浸潤を触れる紫斑が下肢に多発する
- 関節痛や腹痛、腎炎をきたす
- 成人では腎不全への進行に注意
- IgA 免疫複合体が真皮上層の血管壁に沈着して発症する

下腿中心に直径数mm～1cm 以内の浸潤を触れる紫斑（palpable purpura）が播種状に多発する。関節痛、腹痛や下血などの消化管症状、糸球体腎炎を認める。

病理組織学的には白血球破砕性血管炎であるが、そのなかでも真皮上層に限局し、血管壁への IgA 沈着を認めるものをいう。

小児に好発するが、成人例もみられる。頭痛、咽頭痛、感冒様症状が先行する。小児では上気道感染後に発症する例が多い。レンサ球菌感染による場合は、ASO および ASK 値が上昇する。

治療は安静、血管強化薬、止血薬、NSAIDs、症状が強い場合はステロイド内服。



点状紫斑が多発し一部で融合する



水疱、膿疱を伴う



手に散在する紫斑



播種状に多発する紫斑



痂皮，びらんを少数混じる

しょうせき

掌蹠角化症

palmoplantar keratoderma; PPK

遺伝性角化症

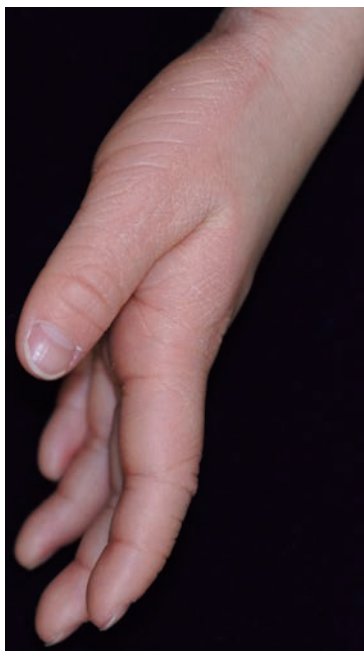
- 遺伝性に手掌や足底に高度な過角化をきたす疾患の総称
- 掌蹠の発汗過多, 潮紅, 指端断節を伴うこともある
- 臨床型や遺伝形式によりいくつかの病型に分類されるが, 日本人や中国人では長島型が多い
- 遺伝子変異は一部の病型でしか同定されないものが多く, 分類の正当性についても今後の検討を要する

ケラチン 1, ケラチン 9, SERPINB7, デスモグレイン 1, デスモプラキン, ロリクリン遺伝子などが原因遺伝子となりうる。

長島型, ^{ウンナ}Unna-Thost 型, ^{トースト}メレダ型などに分類されるが, いずれの型も根本的な治療法はない。対症療法としてはレチノイド内服やサリチル酸ワセリン, 保湿剤の外用。



典型皮疹の拡大図



長島型。紅斑と過角化は手掌を越えて手背に及ぶ



長島型。紅斑と過角化は足底を越えて足背に及ぶ



手掌の過角化



足底の過角化



著明な過角化